

指導者のための情報紙

彩の国 発行：財団法人 埼玉県体育協会 埼玉県スポーツ少年団 〒330-0063 さいたま市浦和区高砂3-14-1 埼玉県自治会館3F

URL : <http://www.japan-sports.or.jp/saitamaken>

No. 11

スポーツともだち仲間たち

この情報紙を指導者・母集団に回覧しましょう

平成17年度埼玉県スポーツ少年団 ブロック本部長会議報告

平成17年度ブロック本部長会議が昨年の11月から12月にかけて各地で開催されました。

対象となる86市町村のうち出席したのは44市町村（全体の51%）で、ややさびしい感も否めませんが、各ブロックとも団員の確保や指導者の資質向上、活動資金、リーダー育成などのテーマに基づき、活発な意見をはじめ、取り組みの先進事例

や建設的提案などが積極的になされ、総じて有意義な情報交換の場となりました。

ここでは、テーマごとに提出された主な意見の中から、現状と課題及び対策などについて報告いたします。それぞれが貴重な意見や共通の課題が多く含まれていますので、ぜひ対応策などを一緒に考えていただきたいと思います。

《団員の確保》

<課題>

- ▶ 団の構成人数（団員）の減少がみられる。
- ▶ 女子団員の増加策・加入率向上策の促進。
- ▶ 人口に対する加入率が少ない。
- ▶ 団員・児童数の減少が比例している。
- ▶ 加入率の変化はないが、少子化の影響により団員数の減少がある。
- ▶ 小学校の統合等により団員の減少がみられる。
- ▶ スポーツ少年団未加入団体への登録促進。
- ▶ 未加入の子どもが、親の理解により活動できない。
- ▶ 親が競技の過熱化になっているようである。
- ▶ 児童数の減少により将来的には単位団の合併の検討。
- ▶ 中学校部活動との関係がある。
- ▶ 団員の体力について低下がみられる。
- ▶ 学校・教育委員会との連携（小学校は施設利用。中学校は部活動とのかかわり）を考えている。

<現状・対策>

- ▶ 団員の確保については親同士の口コミが、一番効果が出ている。
- ▶ 団員確保に向けて、親の理解を求めるよう努めている。
- ▶ 団員の増加策については指導協を活用している。
- ▶ 中学校野球部が廃部になったため、中学生団員のみの団を新規で創設した。
- ▶ 団員が減少している単位団を統合したところ、団員・指導者ともに増加傾向にあり、活動が充実してきた。
- ▶ スポーツ体験フェスティバルの実施により登録希

望者が出てきている。

- ▶ 学校の協力を得ながら団員募集に関する活動をしている。
- ▶ 学校との連携も密にするよう取り組んでいる。
- ▶ 増加策として、中学校へ少年団の種目である部活動を取り入れて（廃部にしないよう）もらうよう依頼をしている。
- ▶ 子供の居場所づくり事業（文部科学省委託事業）を実施したところ、団員外で延べ500名以上の参加あり。成果としては、来年度バレーボールの単位団立ち上げ準備中。
- ▶ 広報誌を年2回発行し、うち1回は単位団の紹介・団員の募集を行う。
- ▶ 団員確保策として行政の広報誌へ活動状況の掲載等を依頼している。
- ▶ 代議員に学校長を含んだところ成果が現れた。（新規団の創設）
- ▶ 年2回、各単位団活動拠点の施設（学校）清掃活動実施。清掃後、全体が集合しての体力テストの実施。そこに各学校長を招待し、スポーツ少年団活動の理解を深めてもらう。
- ▶ 国体の効果として、柔道・剣道の平成18年度からの加入見込みあり。

<その他>

- ▶ 団員は減少傾向にあるが、各市町村での実例を紹介してもらいたい。特に他団体との関わりの部分。
- ▶ 剣道の単位団が警察のスポーツ教室から登録をしていたが、活動に際し、署長の決済が必要なため登録を取りやめた。
- ▶ 住宅地を中心とした単位団では時代とともに対象

年齢の子どもが少なくなってしまった。

《指導者》

<課題>

- ▶ 女性指導者の養成。
- ▶ 有資格者への研修事業。
- ▶ 認定員を対象とする研修会への参加者が少ない。
- ▶ 親の過熱化。

<対策・現状>

- ▶ 指導者による競技の過熱化については保護者との関係も考慮しながら検討中。
- ▶ 指導者の資質向上としては、毎年県外研修を実施している。
- ▶ 親の過熱化対策として、母集団の強化。
- ▶ 指導者の資質向上に関しては、県本部補助事業を利用。
- ▶ 指導者養成講習会を実施し、登録指導者が増加傾向にある。
- ▶ 資質向上に関しては、母集団をはじめとする研修事業の実施。

<その他>

- ▶ 特徴として、指導者は役場職員が多い。

《活動資金》

- ▶ キーホルダーの販売で自己資金の確保。

- ▶ 自己資金の確保としては、登録料の値上げも検討している。

- ▶ 資金確保については年2回チャリティーゴルフの開催をしている。

- ▶ 活動資金は補助金。

- ▶ 活動資金の確保のため資源回収事業(年2回)を保護者・OB等で実施。

《リーダー関係》

- ▶ 同時交流をきっかけに、独自にドイツとの交流がある。
- ▶ ジュニア・シニアリーダースクールへの参加は学校部活動との関わりから参加が難しい。
- ▶ 同時交流を受入後、各団のつながりが強くなった。

《その他》

- ▶ 地域との結びつき、体育協会との協力で総合型地域スポーツクラブを考えていく。
- ▶ 現在、合併後の調整中(新しい本部体制の構築)。
- ▶ 事務局が行政より、民間に移る。
- ▶ 現状では競技の過熱化及び体力低下については二極化の傾向にある。

《要望》

- ▶ 県本部への要望として、県本部広報誌を各学校へ配布してもらいたい。

平成17年度埼玉県スポーツ少年団指導者現地研修会

平成17年度埼玉県スポーツ少年団指導者現地研修会が1月28・29の両日、伊香保温泉「福一」で、県内から指導者約300人が参加して開催されました。

冒頭、藤沼本部長から「市町村合併が続く中、埼玉県では90ほどあった市町村が、この春には70くらいになり、代議員の選出方法なども考えなおさなければならぬ時期がきている。埼玉県スポーツ少年団が、名実ともに日本一のスポーツ少年団と誇れるよう、指導者の皆さんに頑張っていただきたい」との挨拶がありました。

講演会は、目白大学教授の村越晃氏による「子どもたちの心と生活」という演題で行われ、小学校の



教諭、教頭、校長という同氏の経験から、子どもの生活リズムについて話されました。

講演会に引き続き、県本部育成広報委員会、事業委員会、指導者委員会、リーダー育成委員会、指導者協議会から、平成17年度の活動報告がありました。

その後、分科会(サッカー、軟式野球、バスケットボール、バレーボール、剣道、ソフトボール、空手道、柔道、バドミントン、ソフトテニス、複合)ごとに平成18年度の事業計画(別項参照)などについての説明等が行われ、情報交換会に移りました。

2日目は、全体会のあと、「ジュニア期のスキー



講演していただいた村越氏(左)と森氏(右)

「指導のあり方」と題して、浦和学院高校野球部監督の森士（もり・おさむ）氏の講演がありました。

同氏は、1987年大学を卒業後浦和学院高校のコーチとなり、1991年に監督に就任し現在にいたっています。その間、春の甲子園6回、夏の甲子園5回出場という成績を残しています。この研修会には野球の指導者の参加が90数名ともっとも多く、興味深く講演を聞き入っていました。

平成18年度種目別大会計画

軟式野球

第25回夏季小学生軟式野球交流大会

6月18・25日・7月1日 神川町

第31回小学生軟式野球交流大会

10月22・29日・11月3日 吉見町 32チーム

第29回中学生軟式野球交流大会

8月5・6日・12日 春日部市

サッカー

第35回埼玉県サッカー少年団大会

11月12・19・25日 埼玉スタジアム2002

各4地区を勝ち抜いた32チームによるトーナメント大会

ソフトボール

第29回ソフトボール中央大会

8月26・27日 さいたま市荒川総合運動公園

男女とも16チームのトーナメント方式

各地区より選出（チーム数）

東部地区 男子 3 女子 4

西部地区 男子 0 女子 4

南部地区 男子 10 女子 6

北部地区 男子 3 女子 2

空手道

第22回空手道交流大会

9月3日 北本市体育センター

700名 各ブロック選出

形の部：小学1・2年 共通

小学3・4年 男女

小学5・6年 男女

中学 男女

組手の部：小学5・6年 男女

中学 男女

バレー

第4回全国スポーツ少年団バレー交流大会

埼玉県決勝大会

1月13・14日 さいたま市槇の森スポーツセンター

第25回関東ブロックスポーツ少年団

バレー大会埼玉県大会決勝

7月2・8日 熊谷ドーム・所沢市民体育館

第3回埼玉県スポーツ少年団中学生交流大会

8月

バスケットボール

第25回ミニバスケットボール交流大会

7月1・2日 深谷ピックタートル・本庄市児玉総合体育館

第7回ジュニアリーダーバスケットボール大会

8月13日 さいたま市記念総合体育館

柔道

第28回埼玉県スポーツ少年団柔道親善大会

8月27日 県立武道館 1200名

複合

第26回複合種目大会

9月2・3日 飯能市上名栗村キャンプ場
300名

ソフトテニス

第27回埼玉県スポーツ少年団ソフトテニス交流大会
中央大会

8月20日 (小学生)

熊谷市彩の国熊谷ドーム多目的運動場

8月26日 (中学生)

熊谷市運動公園テニスコート

南部地区交流大会

7月1日 川口市青木公園テニスコート
北部地区交流大会

7月15日 小川町総合運動場テニスコート

バドミントン

第25回埼玉県スポーツ少年団バドミントン大会
(団体戦)

12月2日 久喜市総合体育館

第13回埼玉県スポーツ少年団バドミントン大会
(ダブルス)

3月3日 蓼田市総合体育館

剣道

ブロック大会

東部A

東部B

西部 小川地区

北部 児玉地区

第30回埼玉県スポーツ少年団剣道交流大会

8月27日 戸田市スポーツセンター

第29回全国スポーツ少年団剣道交流大会選手選考会

12月10日 熊谷市スポーツ文化公園熊谷ドーム

駅伝

第24回埼玉県スポーツ少年団駅伝競走大会

2月11日 朝霞市陸上競技場

大会記録



2月11日、第23回埼玉県スポーツ少年団駅伝競走大会が朝霞市中央公園陸上競技場周辺周回コース(6区、10,470m)で開催されました。

天候に恵まれ、男女とも1位は大会新記録、また女子の部では2区から6区までいずれも大会新記録が出ました。

<男子の部>

- 1位 戸塚フットボールクラブジュニア
- 2位 尾山台イレブンスポーツ少年団
- 3位 中山スポーツ少年団
- 4位 レツツアサカサッカースポーツ少年団

皆さんの団にはリーダーと呼ばれる団員はいますか？少年団の多くは小学生を中心で、中学生になると部活動や塾などいろいろと忙しくなり、単位団との関わりが少なくなっていくという子どもたちが多く見受けられます。中には、「卒団」というかたちで少年団から卒業させてしまうようなこともあるようです。

スポーツ少年団は「次代を担う健全なからだとこころを持った青少年の育成」という理念のもと創設されました。スポーツを通して、立派な社会人を育てようということが大きな目標のひとつになっています。サッカーや野球などの技術的な向上ということだけではないのです。

スポーツ少年団には「リーダー制度」があり、リーダーとして、団員では味わえなかった後輩たちへの指導や団運営の補助活動、プログラムの企画や運営などに携わることによって、少しづつ指導者との距離も近くなり、社会性も身につけていきます。リーダーを育てることはスポーツ少年団の指導者にとってやらなくてはならない課題でもあるのです。

県本部では、リーダースクールや県スポーツ少年団大会など、リーダーの活動の場が設けられています。また、県リーダー会主催の交流交歓会や研修会など様々なイベントも行っています。

- 5位 朝霞いずみ
 - 6位 横瀬武甲スポーツ少年団
 - 7位 大桑ジャイアンツ
 - 8位 若松キッカーズスポーツ少年団
- <女子の部>
- 1位 大和田ミニバスケットボールスポーツ少年団
 - 2位 ファイトマラソンクラブ
 - 3位 石神スポーツ少年団
 - 4位 鶴ヶ島南ミニバスケット
 - 5位 柏葉ミニバスケットボールスポーツ少年団
 - 6位 吉見西ウイングス
 - 7位 新座新開スポーツ少年団
 - 8位 朝霞台ユニオンズ

<区間賞 男子>

- 1区：大木司(尾山台イレブン)、2区：山口貴司(戸塚フットボール)、3区：宮澤雄貴(尾山台イレブン)、4区：甲斐朋也(レツツアサカ)、5区：藤岡孝彰(若松キッカーズ)、6区：阿左美広太(横瀬武甲スポ少)

<区間賞 女子>

- 1区：菅原唯(大和田ミニバス)、2区：海老原茜

未来を支えるリー

ぜひ、指導者の皆さんのがリーダー育成に積極的に取り組んでいただき、このような場に参加を促していただきたいと思います。このことが、リーダー会の活性化につながると同時に、スポーツ少年団としての活動の幅が広がっていくことになるでしょう。

《単位団におけるリーダー》

単位団におけるリーダーは、より良い活動を展開する推進役であるとともに、団員たちのお兄さんお姉さんとして指導者との調整機能を持つ存在です。また、その人格は団員たちに将来あんなリーダーになりたいと思われるようなキャラクターであって欲しいものです。

そのためには、他の単位団のリーダーとも交流を図るなど、広く研修の機会が与えられることが大切です。

リーダーに期待する役割は非常に多岐にわたり、指導者にはない特別な役割もあります。そのようなことからも、単位団には数名のリーダーがいることが必要です。

◆単位団におけるリーダーの仕事

- ①団の運営に関すること

大会記録

(ファイトマラソン)、3区：清水仁美(大和田ミニバス)、4区：仲口あおい(大和田ミニバス)、5区：浜田真紀(大和田ミニバス)、6区：今村季(大和田ミニバス)

*女子の2区～6区は区間新記録

第34回埼玉県サッカー少年団大会

11月23日、第34回埼玉県サッカー少年団大会の決勝戦が埼玉スタジアム2002で行われました。

優勝 江南南サッカー少年団

準優勝 尾間木サッカースポーツ少年団

参加チーム数は486チームで、決勝トーナメントに残った32チームは以下のとおりです(順不同)。

上福岡少年少女、三郷戸ヶ崎イレブン、新座片山、児玉ディバージャ、三郷FCジュニア、岩槻SSS、上尾富士見、川越パンサー、江南南、三郷立花キッカーズ、芝原SSS、FC鶴ヶ島、三郷南郷、北坂戸SC、大宮春岡、飯能ジュニア、戸塚FC、行田ペガサス、所沢マッシュバッファローズ、すみれFC、戸田南、幸手上高野少年、北本キッカーズ、長鶴SS、草加西町、北野SC、尾間木、熊谷東、蕨北町、春日部豊春、坂戸カンガルー、岸町SSS

第30回小学生軟式野球交流大会

11月3日、第30回埼玉県スポーツ少年団小学生軟式野球交流大会の決勝戦が、大宮公園球場で行われました。

優勝 大桑ジャイアンツ

準優勝 美谷本ファイターズ

参加チーム数は434チームで、決勝トーナメントに残った32チームは以下のとおりです(順不同)。

春日部リトル朝日、新明野球、川口レインボーファイターズ、秩父荒川少年野球、高砂マリーンズ、松伏ファイターズ、加須レンジャー、高階南ヤンガーズ、長瀬ジャイアンツ、レッドダイーグルス、精明スワローズ、太田マリーンズ、浦和ジャイアンツ、白南ボーイズ、美谷本ファイターズ、小手指ファイターズ、大桑ジャイアンツ、妻沼ホーマーズ、原市場ライオンズ、浦和エンデバーズ、鴻巣アカミネ、白岡ファイターズ、小泉ジュニアーズ、唐子ジャイアンツ、芦山ロイヤルズ、蓮田ヤングフェニックス、沼影少年野球、春日部フジメイツ、秩父ドリームズ、霞ヶ関イーグルス、手子林ブラックス、川口ビッグスターズ

リーダーを育てよう！

- ・指導者との連絡や調整にあたる
- ・団員会議の運営をする
- ・団員の意見を取り入れる
- ・団員一人ひとりの相談相手になる
- ・団のグループワークをする

②団の活動に関するこ

- ・年間計画、行動計画の作成を団員と共に考え、まとめる
- ・活動計画の作成について指導者と話し合う



- ・団活動の推進・進行にあたる。また指導の補助を行う
- ・施設・用具類の点検・準備と整理をする
- ・活動の記録や反省の場所でリードをする
- ・安全対策、健康管理の世話役をする
- ・団の広報活動をリードする

《市町村におけるリーダー》

市町村スポーツ少年団は単位団のリーダーを掌握しリーダー会を組織し、その運営や活動を指導し、資金を補助するとともに、リーダー自身の活動を保障し、研修等もできるだけ彼らに企画・運営させていくことが大切です。

◆リーダーのための指導・援助

- ・リーダー会の組織づくりとその運営の指導
- ・リーダー会への活動資金援助
- ・リーダー養成事業の実施
- ・リーダー研修事業の整備と各種派遣制度の充実
- ・市町村行事におけるリーダーへの役割付与
- ・スポーツ少年団事業にリーダーの声を反映
- ・リーダー・指導者の話し合いの場の設定、交歓行事の開催
- ・他の青少年団体リーダーとの交流の場の設定

スポーツ選手の食事と栄養

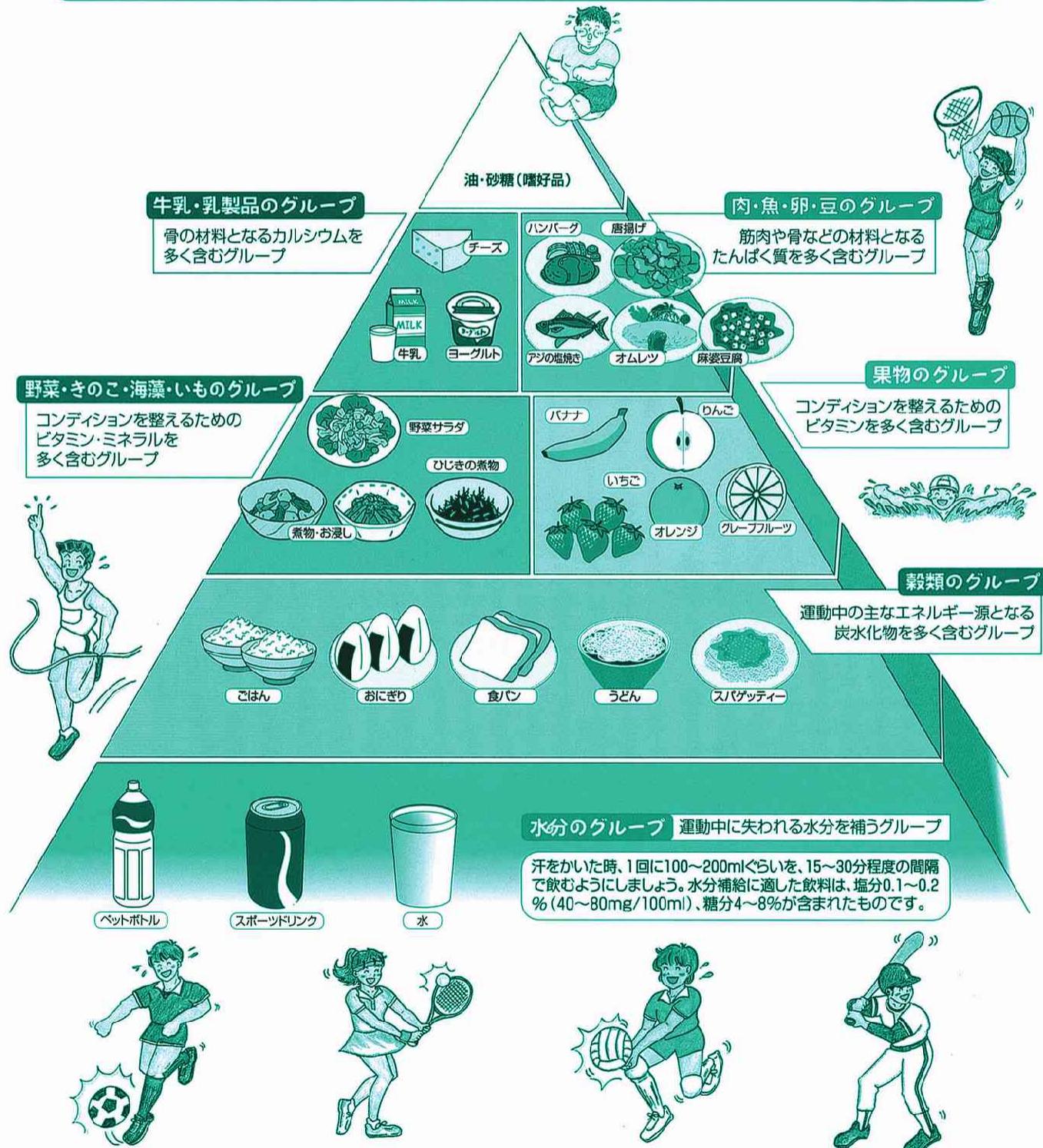
この「食事ピラミッド」は昨年8月に開催された「ジュニアスポーツセミナー2005」で配布された資料で、スポーツ選手の食事と栄養のバランスをピラミッド風にイラスト化したものです。

「牛乳・乳製品のグループ」「肉・魚・卵・豆の

グループ」「野菜・きのこ・海藻・いものグループ」「果物のグループ」「穀類のグループ」「水分のグループ」に分かれています。これらをバランスよく摂取することが肝心です。

(財)日本体育協会「スポーツ選手の食事と栄養」より引用

食事ピラミッド



ピラミッドの面積の大きさに応じて食品を選びましょう。

運動をしていない人の1.5倍から2倍の量を目安に食べるとよいでしょう。



「総合型地域スポーツクラブの必要性について」

前号では、「協働」についてのご紹介をさせていただきました。「協働」については、簡潔に説明すると、地域において様々な団体、個人が連携を図ることで相乗効果を生み出し、現状にある地域課題を克服できる可能性を秘めた手段であるということです。

また、地域において、この活動を推進していくためには、地域住民の「自立」と「参加」が重要なキーワードとなります。

今号では、「総合型地域スポーツクラブの必要性について」考えていきたいと思います。

まずははじめに、「総合型地域スポーツクラブ」（以下総合型クラブ）とは、地域住民の誰もが参加可能であり、他種目、多世代、他志向の特徴を有し、地域住民の主体的運営によるスポーツクラブの形態です。

しかし、決して総合型クラブそのものが絶対的存在ではありません。総合型クラブも「協働」と同様に、地域課題を克服していくための一つの手段でしかありません。

スポーツ少年団においても、本来の目的（誰もが気軽に入団できる環境、年齢を問わず交流ができる場づくりを理想としている）は、「総合型クラブ」と同じ考え方です。

一つの例ですが、「少子化に伴って団員数の減少が進んだため、新たな試みとして身近な中学生や父兄等の大人を取り入れた活動を行った。」この場合、この取り組み自体が総合型クラブの取り組みの一つとなります。

仮に、「スポーツ振興が充実している」「子どもから高齢者までが気軽に参加できるスポーツシステムが整備されている」「既に多くの住民が、定期的にスポーツに親しんでいる」等々の充実したスポーツ環境を有した団体や地域が存在していれば、総合型クラブという手法は必要ないと思われます。

しかし、果たして前述のような充実したスporte

ツ環境が整った団体や地域が、数多く存在しているのかというと疑問が残ります。こういった点からも、まずは団体や地域の明確な現状把握が必要になってくることと思われます。

次に、現在は地方分権化が進んでいます。従来、中央政府が担ってきた多くの仕事を、地方に委譲することとなっています。つまり地方の自立が求められているのです。

これから的地方自治体は、住民の声を反映し、住民と一緒に地域社会の創出に取り組んでいかなければなりません。

地域住民の意識においても、他者依存的意識から自立および地域社会への積極的参加の意識が求められます。

また、これまで行政の予算で行われてきたスポーツ教室やスポーツイベント等も受益者負担の考え方により、参加する地域住民が一定額を負担していかなければなりません。

以上のようなことに対して、総合型クラブという手法は、地域における様々な課題に対して有効的に機能する要素を持ち合わせています。

現在、埼玉県内の総合型クラブを目指す21の育成指定クラブの中には、スポーツ少年団から「総合型クラブ」と「協働」という手法を積極的に取り入れながら活動を行っているクラブがあります。

多くのスポーツ少年団関係者の方々にも、できることから少しずつ、「総合型クラブ」や「協働」の手法を取り入れながら発展を図っていただければ幸いです。

今後、総合型クラブの取り組みは、地域における将来に向けたスポーツ環境の構築、多くの地域住民のつながりを築くことが望まれます。そういった意味においても、総合型クラブは必要性の高い試みであると考えます。

財団法人埼玉県体育協会

クラブ育成アドバイザー 加藤 裕之
(問い合わせ先 財団法人埼玉県体育協会 048-822-5171)



まずは参加 たのしくスポーツ みんなが主役

（財）埼玉県体育協会キャッチフレーズ



平成17年度埼玉県スポーツ少年団表彰式が、12月10日さいたま市浦和区のプリムローズ有朋で、関係者約90人が出席して開催されました。

今年度は表彰規程が制定され2回目の表彰で、90人（当日の出席者は55人）の方が受賞されました（受賞者氏名は本紙No.10に掲載）。

藤沼本部長の「今後も指導者として、スポーツ少年団発展のために頑張っていただきたい」とのあいさつのあと、東西南北各地区の代表に賞状（盾）が手渡され、受賞者を代表して所沢市の倉田健一氏が

平成17年度 埼玉県スポーツ少年団 表彰式 12月10日挙行

謝辞を述べられました。

表彰式に引き続き懇親会が開かれ、受賞者、本部員を交えての交歓が行われました。また、懇親会には、朝霞フレンドリーズ指導者でマンドリン演奏家の宮田蝶子さんが、お仲間3人とともにマンドリン演奏で華を添えてくださいました。



指導者のモラル向上を

最近、県本部に届いた情報の中に、一部指導者の飲酒やタバコによるモラル欠如に関するものがありました。そこで、5年前に県本部が全県指導者、母集団の皆さんに対して訴えた「モラルの向上に取り組もう」のうち、指導者の取り組みを紹介します。

- ・「主役は団員」ということを忘れず、そして公平な指導を。
- ・発育発達を考えて過度な専門的指導は避けよう。
- ・「団員は指導者の背中を見て育つ」といわれますから、言葉使い、マナー、行動にはいつも注意を。（飲酒やタバコにも）
- ・スポーツルールを尊重し、楽しい活動を。
- ・指導者は勉強をして、豊富な知識と効果的な指導に心がける。
- ・「してみせて、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば人は動かじ」は指導の基本。

認定員保留者について

平成17年度認定員養成講習会において、未登録のため認定保留となった人は、平成18年度スポーツ少年団指導者登録ができる時点で認定されます。

情報誌を単位団で活用してください

県本部の育成広報委員会が編集を担当して発行しているこの情報誌「スポーツともだち 仲間たち」は、市区町村本部へ5部、各単位団へは3部が行き渡るように配布しています。

現地研修会その他の会合で、指導者の方々から「そんな情報誌、見たことがない」という声を、たびたび耳にし残念に思っています。

そこで、単位団の代表指導者におかれましては、所属の指導者並びに母集団役員などの方々にも読んでいただけるように、回覧方法などを工夫していただければありがたいと思っております。

編集後記

ようやく春めいてきましたが、花粉症の方にはつらい季節かもしれません。練習で汗をかいた後の一杯もいい季節になりましたが、飲酒後クルマでなどということは絶対にやめましょう。「指導者のモラル向上を」に掲げてある6項目を心がけ、よい指導者といわれるよう…。

埼玉県スポーツ少年団事務局気付「育成広報委員会」
〒330-0063 さいたま市浦和区高砂3-141 埼玉県自治会館内
TEL: 048-822-5171 FAX: 048-822-5174
E-mail: saita.maken@japan-sports.or.jp